



第3号 令和7年10月31日発行



長崎県立佐世保北中学校・高等学校

長崎県佐世保市八幡町6番31号

TEL 0956-22-4105/FAX 0956-22-5361

URL <http://www.news.ed.jp/sasebokita-h/>

「両親の姿に思う」

中学副校長 大東 康治

今年度の4月に着任してから早半年が過ぎました。私と佐世保北との縁と言え、高校3年生の高総体。当時、長崎市内にある高校のバレーボール部員であった私は、九州大会にも出場していた県北の雄、いや、県内屈指の強豪校であった佐世保北高バレー部と対戦し、見事に粉砕されたことを覚えています。「同じ高校生か・・・」と思うぐらいに、屈強で洗練された技術を持った佐世保北高バレー部の強さは、夢中で練習に励んでいた（と思い込んでいた・・・？）私の「高校バレーボール生活」を否応なく終わらせました。

前段で「長崎市内にある高校」と書きましたが、対馬出身の私が、長崎市内の高校に通うためには、両親の理解と協力が不可欠でした。特に、母は「自分で決めたのなら・・・」と、親元を離れて高校に通いたいという私の思いを優先して、中学生だった私の背中を優しく押してくれました。父も同様でした。そんな両親のサポートもあって、私は長崎市での高校生活、そして、キャンパスライフを謳歌することができたのです。しかし、私が二十歳になったころ、母がガンに侵されているのが分かりました。手術を受け、小康を得たと思ったのも束の間、摘出しきれていない部分があり、再度の闘病生活。入院先を福岡、佐賀と変えていきながら、懸命に「いのちの炎」を燃やし続ける母とそれを献身的に支える父の姿は、未熟な私にとっては痛々しいものでした。迫りくる「母の最期」と向き合う覚悟ができない弱い私は、大学のそれほど大変でもないレポート提出や卒業論文の執筆などを言い訳にして、母の病床を訪れることを避けてしまったのです。それでも、弱く自己中心的な私を、母も父も非難することは一度もありませんでした。むしろ、友達から借りたオンボロ軽自動車ですべての私に、「暗くなる前に早く帰りなさい。」「バイトやレポートで忙しいのに、無理して会いに来なくても大丈夫よ。」と毎回話すなど、自分のことそっちのけで息子の心配をするのです。ある時には、「ベッドの布団はちゃんと干してる？しきっぱなしはダメよ。」や「あなたは習字が下手だから、4月から勤める学校では、習字が上手な先生にお願いして、習字の授業を受け持たないようにしなさい。」など、さほど緊急性を感じない心配まで、やせ細り弱っていく我が身の明日以上に大事なことに語ります。懸命に病と闘った母でしたが、私が大学を卒業する直前にこの世を去りました。それから10年がたった節目の日に、闘病中に母がしたためていた日記を父から見せてもらいました。その中には、「病気のことが頭を離れない。毎日不安な気持ちになる。」「家族に会っている時間だけが救い。」「今日は〇〇（息子である私たち兄弟の名前）が会いに来てくれた。うれしかった。」などの、当時の私には打ち明けなかった本音がたくさん書かれていました。私が強く後悔したことは言うまでもありません。そして、母のこんな思いを知りながらも、父が私にどんな思いで接してくれていたのかを、改めて考えさせられました。

私の両親に限らず、親は子の幸せを心から願っています。時には、自らの幸せや喜びを犠牲にしても、我が子の幸せや喜びを優先します。「アンパンマン」の生みの親として有名なやなせたかしさんの言葉に、「人生は喜ばせごっこ」というものがあります。私には、両親の姿とこの言葉が重なり合って感じられます。そして、自己中心的になり、他者のことを考えられない自分を恥じるばかりです。私の両親や、アンパンマンのようにはいきませんが、私も相手の喜びや幸せを大切にできる人間に近づきたいと思う日々です。そして、父親として、我が子に自らの姿で何か大切なことを伝えられる「カッコいい大人」になりたいと願うばかりです。私も年を重ね、当時の母の年齢を追いこそうかとしています。親の愛の尊さを改めて思い出すためにも、久しぶりに対馬に里帰りして、母親の墓参りをしようかなと思っています。

10月1日(水)に共通テスト100日前集会を実施しました。1年次から「生徒主体」を目標に掲げている78回生は、学級委員が中心となり企画、整列、進行まで全て行いました。100日前集会では、それぞれのクラスの代表者が決意表明をしてくれ、身が引き締まる思いで決意表明を聞くことができた様子でした。その時に印象に残っている各クラス代表者の言葉を紹介します。

- 1組 逃げたり楽(らく)したりせず真摯に正面から本気でぶつかってみる
- 2組 残り時間を「減った」と思うのではなく、「成長できる時間」と考える
- 3組 ライバルはライバルでも辛い時に支え合えるライバルとして頑張りましょう
- 4組 模試の結果に一喜一憂せず、自分の弱点を着実に克服して点数を延ばす
- 5組 勝利とはもっとも忍耐強い者にもたらされる
- 6組 これからの毎日を逃げない毎日にする

エールを送ってくれる元生徒会長が登場前に転んだのですが「今ここで僕がこけたので、皆さんがこけることはないでしょう」と場を活気づけてくれました。

これからも78回生をよろしくお願いいたします。



9月4日(木)にアルカス佐世保にて芸術鑑賞会を実施しました。内容は音楽で、TEAMパフォーマンスラボ様によるケルティックコレクションを公演していただきました。バグパイプの生演奏をはじめ、国内外で活躍中の演奏家、ダンサーによる公演はとても楽しく、ケルト音楽の魅力が満載でした。公演の後半には生徒、職員代表によるバグパイプの演奏体験もあり、会場は大盛り上がりでした。今回の公演を機に、ケルト音楽が大好きになったことでしょう。また、学校からの移動についても生徒自らが考えて行動する機会になったと思います。地域の方々の迷惑にならないように移動し、時間を守って集合することができました。これからも佐北生らしい行動を心がけましょう。



高校生徒会 武市 桃果

令和7年10月10日（金）、11日（土）の2日間で文化祭を行いました。「77（ななつぼし）～This is me～」というテーマで迎えた77回目の文化祭では、「生徒一人ひとりが星座のように繋がり、新たな自分を見つけてほしい」という思いのもと、実行委員会を中心として、クラス・部活動・有志団体の発表などの様々な活動に生徒主体で取り組みました。シリアルナンバー付きの工夫を凝らしたパンフレット、「隠レンジャー」や「VS魂in佐北」といった実行委員会主催の新企画、星を基調とした色鮮やかな装飾など、文化祭を訪れたすべての人にとって特別な1日にするための工夫があらゆる箇所に施されていました。

また、本年度は1日目の午後に中学校の合唱コンクールが開催され、八幡体育館内に息の合った綺麗な歌声が響き渡りました。そこには歌い終わった中学生に「とてもよかったよ」「よく頑張ったね」といった声をかける高校生の姿も見られ、温かな1日となりました。一般公開となった2日目には多くの方にご来場いただき、笑顔溢れる文化祭となりました。誠にありがとうございました。





佐世保市中学校体育大会駅伝競技

中学校体育科 塩塚 拓

10月1日（水）に佐世保市中学校体育大会駅伝競走が行われました。

これまで支えて下さった全ての方々への感謝の思いを

胸に全力で^{たすき}襷をつなぎ、大会では女子第5位入賞、男子優勝、及び6区で区間賞、大会新記録4名という輝かしい成績を残しました。

また、今年度は北中創立初の全校応援が実施されました。声がかかるまで声援を送り続けた生徒と選手が一体となった競技場内は、まさに圧巻といった光景でした。

保護者の皆様におかれましては、大会当日の応援を含め、早朝の練習やお子さまの体調管理を支えて下さり心より感謝を申し上げます。11月6日に開催される県中総体駅伝競技に向けて引き続き精進してまいりますので、何卒ご支援とご協力を頂けると幸いです。



行事予定

月 日	曜	中学	高校
11月1日	土		対外模試（高1・2）、対外マーク（高3）
2日	日		対外模試（高2）、対外マーク（高3）
3日	月	文化の日	
4日	火	人生の達人セミナー	
5日	水	読書集会	
6日	木	長崎県中総体駅伝競走	
7日	金	授業参観・懇談会	
8日	土		大学別模試（高3）
9日	日		↓
10日	月		
11日	火	市中連音楽発表会	
12日	水		マラソン大会（高1・2）、校外活動（高3）
13日	木	北辰の日	
14日	金	生徒会役員選挙	
15日	土		校内模試（高3）
16日	日		
17日	月		
18日	火	考査時間割発表	
19日	水		県内企業説明会（高1・2）
20日	木		考査時間割発表、修学旅行説明会（高2）
21日	金		
22日	土		
23日	日	勤労感謝の日	
24日	月	振替休日	
25日	火	第3回考査（～27日）	
26日	水	↓	
27日	木		第3回考査（高1・2 ～12月2日）
28日	金	北辰行	↓
29日	土		
30日	日		